

令和4年度 狭野小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校の経営ビジョン： 児童の自立への意識を高め、伸びたいという思いに応えるために一人一人の成長に寄り添う「見届けの教育」の充実を図るとともに、家庭・地域と連携・協働し、「知・徳・体」の調和のとれた郷土を愛する児童を育成する学校を目指す。

評価基準 4～期待以上（90%以上） 3～ほぼ期待通り（70～90%） 2～やや期待を下回る（50～70%） 1～改善を要する（50%以下）

	評価項目	評価指標	具体的な数値目標	方策・手立てについての自己評価	評価		学校関係者評価コメント
					記	欄	
I 確かな学力の向上	1 「分かる・できる」を実感できる授業実践	○ 一人一人の学習状況を見届け、「分かった」「できた」を実感できる学習指導に努める。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、授業が「分かった」「できた」と答える児童90%以上を目指す。	○ 一人一人の学習状況を見届け、適切な指導・支援を行い、「授業が分かる・できる」と答える児童の割合は100%であった。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少人数指導の良さが出ており、分かった・できた100%につながっている。</li> <li>○ 分かる・できようとする意欲が出てきている。分からないままにしていると後に残っていくので、分かった・できたといえることは素晴らしい。</li> <li>○ 分からないところはすぐに先生に聞いてその日のうちに解決ができていいるのは少人数の良さでもある。</li> <li>○ 教師と子どもの人間関係が大切なので、質問しやれ雰囲気づくりをお願いしたい。</li> <li>○ 目標をもって取り組むことは、意欲にもつながる。読書も楽しみながら無理のない範囲で個人目標を設定し、それから得られる喜びを味わってほしい。</li> <li>○ 一人平均100冊を超える貸し出し数は素晴らしい。</li> </ul>
	2 読書活動の推進	○ 個人の読書目標を設定することで読書習慣を育成し、発達段階に応じた読書をさせることによって、読書の質を向上させる。	○ 児童の読書目標達成 80%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個人の読書目標を設定させ、発達段階に応じた読書活動を推進することで、読書目標達成は64.5%であった。(11月段階) 一人平均100冊以上の貸し出しがあった。(1月段階)</li> <li>○ ビブリオバトルを年2回行い、読書への啓発を行うとともに、読解力や発表力の向上を図った。</li> </ul>	3		
	3 指導力の向上	○ 主題研究やOJT、日々の授業改善と重点支援校訪問の指導を通して全教員が研究授業を行い、指導力の向上を図る。	○ 教員が全員研究授業を行うとともに、重点支援校の取組により授業改善を行う。また、研修会受講の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計画的に主題研究やOJT、日々の授業改善の指導や重点支援校訪問活用により、授業力の向上を図ることができた。</li> <li>○ 計画的にOJTの推進や研修受講を行うことができた。</li> </ul>	4		
II 豊かな心と社会性の育成	1 楽しい学校生活の保障	○ スクールワイドPBSの取組を学校全体で行い、自己肯定感を育む。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、「学校が楽しい」と答える児童90%以上を目指す。	○ スクールワイドPBSの取組を学校全体で行い、「学校が楽しい」と答える児童の割合は77.4%であった。キャンペーンの時期は効果が見られたが、今後継続した指導により自己肯定感や有用感を高める必要がある。	2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童は、外部の方に対して元気よくあいさつしており、素直な心があらわれている。</li> <li>○ いじめの捉え方について児童に指導し、いじめの発見に努めている。いじめがない定期的に調査等を行い、その解決、見届けに力を入れている。</li> <li>○ 少人数で良い面もあるが、人間関係が固定化され、関係改善が難しくなる面もある。</li> <li>○ 学校が楽しいといえない子どももあり、心配である。</li> <li>○ ボランティアは思いやりの行動も含めてボランティアとしている。ありがたいのに、コメントを貼り、放送するなど、啓発を行っている。今後とも進んで思いやりのある行動ができるようにして欲しい。</li> </ul>
	2 あいさつの習慣の定着	○ 児童の主体的な取組を促すとともにあいさ2運動の充実を図る。	○ 学校評価アンケートで、「進んであいさつをする」児童90%以上を目指す。	○ 児童の主体的な取組を促す指導や地域と連携したあいさ2運動の充実を図り、「進んであいさつをする」児童の割合は93.5%であった。家庭でのあいさつは100%、地域でのあいさつは93.3%であった。	4		
	3 主体的に考え、行動できる児童の育成	○ 学校行事や体験活動、委員会活動や係活動等において児童が主体的に行動する場面を多く設定する。	○ 学校行事や体験活動、委員会活動に「進んで参加している」と答える児童90%以上を目指す。	○ 学校行事や体験活動、委員活動や係活動において、児童が主体的に行動する場面を多く設定することで児童が様々な活動に「進んで参加する」割合は93.5%であった。	3		
III 体力の向上と健康安全の推進	1 基礎体力の向上	○ 体力向上プランに基づいた実践及び個別の指導により、体力アップを目指す。	○ 体力テストのD・E段階20%以下を目指す。	○ 体力向上プランに基づいた実践及び個別の指導を行った。体力テストのD・E段階は32%であった。今後、新しい体力向上プランに沿って実践を行いたい。	2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体力の向上に関しては、学校では、自力登校の推進や昼休みにサッカーをしたり外で遊んだりしているが、コロナ禍や子どもの遊び方の変化、少年団等への参加状況等、学校の取組だけでは難しい部分もあると考えられる。家庭でも運動はそんなに行わない現状もある。ただ、体力が付いてきているという児童は87.1%、保護者は92.9%おり、子どもや保護者の実感としては、向上している状況である。</li> <li>○ 給食においては、完食100%を目指してほしい。</li> </ul>
	2 健康・安全の推進	○ 保健教育、安全教育の充実を図る。	○ 「健康・安全に気を付けて生活している」児童90%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎日の健康観察カードや検診結果等から、児童一人一人の生活状況を把握した保健指導を行い、「健康・安全に気を付けて生活している」児童の割合は93.5%であった。</li> <li>○ メディアコントロールチャレンジ週間等を設け、自分自身でコントロールしていく力の向上を図った。家庭でのメディア使用時間のきまりが守れているのは、児童は100%、保護者からは71.4%であった。今後も啓発を続けていく必要がある。</li> </ul>	3		
	3 食育の充実	○ 給食指導の充実と弁当の日の実施により、食育の充実を図る。	○ 「自分の給食を残さずに食べる」児童80%以上を目指す。	○ 給食指導の充実と弁当の日の実施により、「給食を残さず食べる」児童の割合は83.9%であった。給食感謝週間や弁当の日を充実させることができた。	3		
IV 家庭・地域との連携・協働	1 家庭学習の充実と支援	○ 宿題や読み声の見届けについての啓発を行う。	○ 学校評価アンケートの「家庭学習の見届けを行っている」家庭の割合80%以上を目指す。	○ 宿題や読み声の見届けの啓発を行い、「家庭学習の見届けを行っている」家庭の割合は85.7%であった。町一貫教育保護者部会の取組と連携することができた。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭学習については、家庭の協力もあり、見届けが行われているようである。</li> <li>○ 地域行事は、コロナの影響で実施することが難しくなってきたが、棒踊り等、親が伝えられない事を、活動を通して体験できるのでとてもよいと思う。</li> <li>○ 狭野地区には、地域に根ざしたたくさんの行事があり、季節に応じた歴史ある活動が多々ある。今後もウィズコロナで対応しながら継続して参加してほしい。</li> <li>○ コロナが早く収束して、地域行事に積極的に参加できるようになるとよい。</li> <li>○ 高原に生まれ育ったことを誇りに思えるような児童の育成を望む。</li> </ul>
	2 地域人材や文化財の活用	○ 地域人材や文化財の活用等を行い、ふるさとへの誇りや愛着を育む。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、「高原のことをよく知っている」と答える児童80%以上を目指す。	○ あいさ2運動や読み聞かせボランティア、棒踊り、さのっ講話等での地域人材の活用を行った。また、文化財の活用や地域行事への参加を促し、「高原や狭野のことをよく知っている」児童の割合80.6%であった。	3		
	3 ふるさと教育の充実	○ 高原町「ふるさと教育の手引き」「ふるさと学習テキスト」等を活用し、ふるさと教育の充実を図る。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、ふるさと高原を「好き」と答える児童90%を目指す。	○ 町の手引きやテキストを活用し、ふるさと教育を充実させるとともに、子ども未来議会において高原町についての要望や提言を行い、「ふるさと高原が好き」な児童は83.9%であった。今後も継続して取り組んでいきたい。	2		